

全国バイオディーゼル燃料利用推進協議会 2024 年度事業報告

1 総会

(1) 第19回総会

2024 年度の総会は 6 月 25 日(火) 14 時 00 分～15 時 00 分に対面とオンラインのハイブリッドにて開催した。オンラインでの参加者は議決権が無効となるため、審議事項のみ 6 月 4 日(火)～6 月 20 日(木)の期間に文書審議により実施した。正会員 64 会員のうち、過半数を超える 56 会員からの回答を得られ、2023 年度の事業報告、収支決算報告、2024 年度の事業計画及び収支予算が承認された。

(主な議案) 第 1 号議案 2023 年度事業報告

第 2 号議案 2023 年度収支決算及び監査報告

第 3 号議案 2024 度事業計画

第 4 号議案 2024 度収支予算

その他報告事項等

(主な結果) 各号議案別に、意見及び質問の確認をした上で採決し、それぞれ提案のとおり承認された。

※ 本内容は、6 月 25 日(火)のハイブリッド総会でも結果報告し、会員へ電子メールでの通知とともにホームページ上で公開した。

2 幹事会

(1) 第 47 回：4 月 24 日(水) 13 時 00 分～15 時 00 分(オンライン)

総会に提出する 2023 年度の報告、2024 年度の事業計画についての検討・確認を中心に議論し、第 19 回総会の開催方法については、対面とオンラインのハイブリッド開催とし、審議事項については事前文書審議とすることに決定した。その他、「バイオディーゼル燃料の製造・利用に係るガイドライン」の運用や、表彰募集、一般社団法人日本建設業連合会との連携や意見交換会について検討した。

(主な議事)

1. 2023 年度の活動について

(1) 事業報告(案)

(2) 収支決算(案)

2. 2024 年度の活動について
 - (1) 事業計画 (案)
 - (2) 収支予算 (案)
3. 第 19 回総会・講演会・交流会の開催について (開催日程および内容)
4. 表彰について
5. 2024 年度バイオディーゼル燃料取組実態等調査について
6. その他・情報交換等

(2) 第 48 回：2 月 20 日(木) 10 時 00 分～12 時 00 分 (会場／オンライン)

2024 年度の事業中間報告のほか、2025 年度の事業計画について検討した。その他、視察見学会や日建連との意見交換会について情報共有があり、2024 年度のバイオディーゼル燃料取組実態等調査結果の内容について確認し、公表内容を確定した。

また、軽油引取税と消費税の課税状況について事務局から情報提供があった。

(主な議事)

1. 2024 年度事業中間報告
2. 2025 年度事業計画 (案)
3. 2024 年度バイオディーゼル燃料取組実態等調査結果
4. 軽油引取税と消費税について
5. 日本建設業連合会との意見交換会について
6. 視察見学会について
7. その他情報交換等

3 監査

2023 年度会計監査を 5 月 8 日(水)及び、5 月 20 日(月)にそれぞれ、対面またはオンラインで実施した。監査結果については、第 19 回総会にて監査報告を行った。

4 専門委員会

(1) 企画実行委員会

2024 年度は委員会開催には至らなかった。

(2) 品質確認制度運用委員会

2024 年度の分析機関と費用が設定されたことにより、4 月 5 日(金)から分析受付を開始し、協議会規格 (全項目) 5 件、モニタリング規格 20 件、特定項目の分析 5 件の依頼があった。FAME の分析結果で、特段大きな問題点は見受けられなか

った。2024 年度の特徴としては、モニタリング規格の分析依頼が急増したことや、特殊な項目の分析依頼が増えたことが挙げられる。

また本年度より、分析結果が協議会の規格に合致していない場合や、技術的な相談の希望者には、専門家からのアドバイスが受けられ、製造方法の見直しや分析結果によるフィードバックができる体制を構築したところ、多くの相談があり、技術的な相談窓口の強化によって会員サービスが多様化した。

その他、「バイオディーゼル燃料の製造・利用に係るガイドライン」については、2022 年度に大幅改正を行い、2023 年度にも一部改正をしたことから、2024 年度においては、ガイドラインの周知や PR をするとともに、本委員会を設置し、これまでの分析結果の蓄積データを精査した上で、品質向上のための勉強会を開催した。

第 1 回品質確認制度運用委員会（オンラインにて開催）

日 時：2024 年 9 月 25 日(水) 15 時 00 分～17 時 00 分

出席者：委員 4 名、事務局 3 名

（主な議事）

1. バイオディーゼル燃料の協議会規格と品質分析結果について
 - ①2021-2023 の分析件数と結果
 - ②モニタリング項目分析及び全項目分析における規格外の多い項目について
 - ③規格外の多い項目の原因と対処方法
2. 品質向上のための勉強会／特定加工業取得セミナーの開催について
3. その他（日建連との意見交換会について）

（3）用途拡大委員会

2024 年度は委員会開催には至らなかった。

5 調査・行事等

（1）バイオディーゼル燃料取組実態等調査の実施

2024 年 7 月～12 月にかけて、バイオディーゼル燃料に取り組んでいる事業者(会員以外を含む)を対象に、2023 年度（2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日）の取組実績について調査を実施し、129 事業者から回答を得た。集計した結果、バイオディーゼル燃料の製造量は、前年から約 2,000kL 増加していた。

取りまとめた本調査の結果は、農林水産省及び資源エネルギー庁へ結果を提出するとともに、後述する一般社団法人日本建設業連合会との意見交換会の資料にも使用した。

(2) 講演会

6月25日(火)の総会の後に、対面とオンラインのハイブリッドで講演会を開催し、会場参加は90名、オンライン参加は54名であった。講演会プログラムは下記のように実施した。また、講演会終了後は同会場にて立食形式の交流会を開催した。

- ①講演 テーマ：バイオディーゼル燃料の地域資源循環への貢献
講 師：NPO 法人碧いびわ湖 監事 藤井絢子 氏
(NPO 法人菜の花プロジェクトネットワーク 元代表)
- ②講演 テーマ：『船舶におけるバイオ燃料取り扱いガイドライン』の概要
講 師：国土交通省 海事局海洋・環境政策課 脱炭素推進官 松本真 氏
- ③講演 テーマ：三和エナジーにおけるバイオ燃料の取組み
講 師：三和エナジー株式会社 環境事業部 副課長 山田貴帆 氏
- ④講演 テーマ：空港の脱炭素化とバイオディーゼル燃料の利活用
講 師：日本航空株式会社 グランドハンドリング企画部
運営グループ グループ長 吉村秀哉 氏

(3) セミナー及び勉強会

11月27日(水)に B5 混合軽油のための特定加工業取得セミナーと、品質向上のための勉強会を開催し、対面とオンラインのハイブリッドで講演会を開催し、会場参加は47名、オンライン参加は20名であった。プログラムは下記のように実施した。また、セミナー／勉強会の終了後は同会場にて個別相談コーナーを設け、講師への相談をすることも可能とした。

B5 混合軽油のための特定加工業取得セミナー/品質向上のための勉強会

- ①講演 テーマ：揮発油・軽油の特定加工業開始に向けて「特定加工の手引き」
講 師：経済産業省 資源エネルギー庁
資源・燃料部 燃料流通政策室 振興班 田中一成 氏
- ②講演 テーマ：特定加工業取得のための留意事項とポイント
講 師：油藤商事株式会社 代表取締役 青山裕史 氏 (協議会副会長)
- ③講演 テーマ：バイオディーゼル燃料の品質向上のための製造方策と利用における留意事項
講 師：滋賀県立大学 工学部 教授 山根 浩二 氏
(品質確認制度運用委員会 委員長)

※個別相談コーナー (会場のみ) 17時～

（４）意見交換会

２月 20 日(木)に一般社団法人日本建設業連合会（以下、日建連と略）とのバイオディーゼル燃料の製造・利用に係る合同意見交換会を開催した。日建連からは 15 名、協議会からは 27 名、オブザーバー企業 3 名、省庁のオブザーバー 6 名、事務局 5 名の出席があった。会議終了後は同会場にて立食形式の交流会を開催した。

日 時：2025 年 2 月 20 日(木) 15 時 00 分～17 時 40 分

場 所：馬事畜産会館 2 階大会議室

議 事：意見交換するテーマ

（１）オフロード法におけるバイオディーゼル燃料について

（２）建設現場における FAME など軽油代替燃料の導入について

日建連・・・カーボンニュートラル実現に向けた推進方策

BDF 協議会・・・2024 年度実態調査の結果と最近の取組状況

（３）その他意見交換・各社の取組状況

（５）視察見学会の開催

視察見学会を 3 月 24 日(月)に、三和エナジー株式会社の協力を得て、同社の新狭山バイオプラントにて、参加者 31 名、事務局 2 名の合計 33 名の参加者があった。プラントの見学の他、質疑や交流も活発に行われた。

6 その他

（１）菜の花議員連盟 総会・勉強会への参加・発表

5 月 17 日(金)に菜の花議連連盟の総会・勉強会が開催され、本協議会は勉強会にて、「バイオディーゼル燃料の脱炭素への貢献」と題して発表を行った。勉強会では、ナタネの現状について農林水産省から報告がされた他、SAF と廃食用油の現状を巡って、関係省庁、日本航空、全日本空輸も発表され、活発な議論が交わされた。

（２）経済産業省 資源エネルギー庁 第 18 回総合エネルギー調査会 資源・燃料分科会 脱炭素燃料政策小委員会へのオブザーバー参加・発表

3 月 25 日(火) 10 時 00 分～12 時 00 分に、資源エネルギー庁で第 18 回脱炭素燃料政策小委員会が開催され、議題が FAME と HVO であったことから、本協議会もオブザーバー参加及び資料提供（発表）を行った。

FAME については、本委員会において課題の共有と資源エネルギー庁の今後の方

針案が示された。

また、環境価値認証・移転制度については、バイオディーゼル燃料含む全てのバイオ液体燃料における、燃料と環境価値を切り離すブックアンドクレームの手法が有効ではないかという案が示された。ブックアンドクレームとその属性取引に基づく新たなクリーン燃料証書制度の創設を目指し、証書制度の導入にあたっては、2025 年度から実証を開始し段階的に立ち上げることとしてはどうかという案が示された。

（３）ホームページの運用等

協議会のホームページ内に 2022 年度から「活用事例集」のページを設けており、メールニュースで配信している取組事例紹介を、ホームページ上でも公開している。その他、ホームページを通じて各種情報発信を行った。

（４）相談室業務等

バイオディーゼル燃料化事業の円滑な普及・発展を図るため、本協議会に設置した相談室への問い合わせの電話、メール相談や面談等に対応した。

本年度から、高度な技術相談に対応できるよう専門家と顧問契約し、技術的な相談窓口を強化した。内容としては、会員か非会員かに関わらず、バイオディーゼル燃料に関する様々な相談があり、一例として、需給関係、法令関係、技術的課題、実証事業、J-クレジットの活用方法、市場予測、品質管理、CO₂削減効果等多岐にわたる相談があった。

専門家に対応いただいた相談は 19 件、それ以外に事務局で対応した相談は 31 件程であった。

（５）情報の発信（メールニュース・事例紹介）

毎月 1 回程度、会員向けのメールニュースを発信し、バイオディーゼル燃料に関する最新情報や、会員の取組事例を紹介した。

- ・メールニュース：4/16、5/16、6/5、7/5、8/2、9/20、10/9、11/5、11/29、1/6、2/14、3/5、その他臨時ニュース
- ・事例紹介（No.25～No.27）
- ・協議会の公式インスタグラムアカウントを不定期に更新した。